

## 会 議 録

会議の名称	第6回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開催日時	令和4年7月11日(月) (午前・午後) 2時00分 開会 (午前・午後) 4時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館 10階大会議室
議長	山本 博史 氏 (追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授)
出席者	<p><b>【評価委員】</b> 山本博史氏(学識経験者)、藤原直樹氏(学識経験者) 河合将生氏(NPO関係者)、高田和子氏(地域活動関係者)、板倉幸司氏(公募市民) ( 5人)</p> <p><b>【事務局】</b> 高崎市民協働推進課長、山本市民協働推進課市民活動係長、濱田市民協働推進課職員 ( 3人)</p> <p><b>【関連課及び担当課】</b> 子育て支援課、教育センター、北部整備推進課、スポーツ推進課、文化振興課 ( 5課)</p>
開催形態	原則公開(傍聴者0人)
議題(案件)	(1) 会議の概要説明 (2) 提案者によるプレゼンテーション及び質疑応答
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第</li> <li>・ 令和4年度 チャレンジいばらき補助金申請事業一覧(連携型)</li> <li>・ 応募関係書類(個人情報を含むため省略)</li> </ul>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	開会及びあいさつ
山本委員長	委員長あいさつ 公開・非公開の決定について（原則公開） 会議録について（要点筆記とする） 本日の会議の概要説明  ----- プレゼンテーション開始 -----
	<b>【連携型】</b> 幼児の心とからだを育み 初めての木育！（木にふれる・木でつくる・木で遊ぶ） 特定非営利活動法人さんさんごご  <b>【関連課 意見】</b>  <b>【質疑応答】</b>
藤原副委員長	・どのように募集を行うのか。 ⇒茨木市の広報誌への掲載やチラシを作成し、市内の公共施設に配架をいただくことを考えている。
河合委員	・木育教育は、茨木市内で実施しているところはあるのか。 ⇒団体で把握している限りはない。また、端材を活用し、物を作成することは、他団体のイベントで実施していることは確認をしているが、教育としては行っていない。 ・「芸術と遊び創造協会」で木育インストラクター養成講座を実施しており、そこで学ばれ、実践されているという認識でいいか。 ⇒そのとおりで、今回講師として来ていただく山下先生と知り合った経緯も、東京おもちゃ美術館が行っている木育ゼミナールで講義を受けたことがきっかけで、知り合い、今回講師として来ていただくこととなった。
山本委員長	・里山センターから木材を提供いただく等の連携を行い、子どもたちが里山センターに行き、山を知ってもらいたい。 ⇒今回の事業から山に興味を持ってもらい、休日等に家族で遊びに行くような環境づくりにつなげていきたい。 ・ホームページ等の SNS を活用した広報も検討してはどうか。 ⇒団体でホームページを持っているため活用し、広く発信していく。  <b>【連携型】</b> 移動式はいはい♡あんよルームたまふら祭 子育てアラサークルたまふら  <b>【関連課 意見】</b>

山本委員長	【質疑応答】
藤原副委員長	<p>・2回実施を予定しているが、参加予定人数の70人程度というのは、2回合わせての人数か。</p> <p>⇒1回につき、最大70人を予定している。</p>
河合委員	<p>・これまでも様々な団体と連携しながら、事業を展開されているが、今回提案されている事業計画の取組はこれまでと異なる要素があるのか。</p> <p>また、提案事業には、サークルの方が参加されるのか、サークル以外の方が参加される可能性があるのか。</p> <p>⇒これまでの連携は、相手方が主催でこちらはおもちゃの提供等の事業に対して補助を行っていた。</p> <p>また、参加者について、団体名が子育てアラサークルであるが、固定メンバーいないため、毎回参加者が変わることが強みであると捉えており、提案している事業においても様々な方が参加いただけると考えている。</p>
板倉委員	<p>・子育て当事者だけでなく、大学生等の子育て当事者でない人も参加することにより、大人側の視点だけでなく、新たな学びがあると思う。そのあたりをどのように設計しているか。</p> <p>⇒サークルメンバーは、子育て世代が中心となっているが、学生から高齢者までの方と一緒に事業を作り上げていきたいと考えているため、事業の実施体制にも記載しているとおり、市内の大学や社会福祉協議会と連携し、事業の実施を予定している。</p>
高田委員	<p>・秋と冬のイベントの具体的なタイムスケジュールは。</p> <p>⇒秋の音楽祭は、開始時間が10時20分で30分間は子どものための吹奏楽コンサート、休憩を挟み、30分間大人のための吹奏楽コンサートを予定している。</p> <p>冬の運動祭は、開始時間が10時で11時までの1時間、0才から1才を対象に保護者が抱っこしながら運動、他の部屋では2才から3才までの子どもが室内で自由に遊びまわる。最後の30分間でお話し会の実施を予定している。</p> <p>・来場者が70人程度となっているが、親も含めた人数か。</p> <p>⇒子どもと保護者を合わせて70人を想定している。</p>
	<p>【連携型】</p> <p>今から自分ができる事を考える～189映画上映会～</p> <p>みんなのほっとルーム</p>
	<p>【関連課 意見】</p>
藤原副委員長	<p>【質疑応答】</p> <p>・連携先の団体は、事業実施に際してどういう役割を担うのか。</p> <p>⇒たまふらは、子どもを対象とした事業をされているため、子育て世代の集客面を期待している。また、事業を通じて今後の連携にもつなげていきたい。</p>
板倉委員	<p>・収支予算書について、使用料が24万円計上されているが、内訳には会場代の16,250円と機器レンタル代の3,750円のみ記載となっている、それ以外は、映画上映権代なのか。</p>

山本委員長	<p>⇒映画上映権が1日当たり22万円の費用がかかる。      なお、上映の予定は朝・昼・夜の3回を予定している。      ・1回あたりの来場人数は何人を想定しているか。      ⇒会場の大きさから1回あたり最大60人来場することができるが、コロナ禍であることから1回あたり40～50人の来場を見込んでいる。      ・尼崎市で行われている映画上映会は、有償で実施しているのか。      ⇒尼崎市は、有償で実施している。また、当初は、今回の提案事業も有償で実施することを想定していたため、企業にチケットを販売し、来場いただく予定であったが、連携型事業の募集があることを知り、まずは、無料で多くの人に見ていただき、実績を作ってから企業に話を持っていきたい。      ・尼崎市では、入場料はどれくらいの金額で実施していたか。      ⇒尼崎市では、軽食付きで2,500円～3,000円で実施をしていた。      ・連携先でうちラボとも連携すると記載されているが、うちラボの学生はどのような役割を担うのか。      ⇒上映会への参加、その後に実施するお話し会のコーディネータとして携わっていただく。</p>
高田委員	<p>・会場は既に予約済みなのか。      ⇒まだ予約はしていない。予算書を作成するにあたって、今回の提案事業に最適なオークシアター303号室の金額で積算した。</p>
藤原副委員長	<p>・もし補助金を得られなかった場合の予定は。      ⇒これまで団体として多くの企業と連携して様々な事業を行ってきたことから、これまでの実績を基に企業に話を持って行き、チケットを購入いただくことを予定している。</p>
河合委員	<p>・上映会後のお話し会は、その日に行うのか、別の日に行うのか。      ⇒上映会の日にお話し会を行う。さらに、後日、連携先の団体に対してもお話し会を実施する予定。</p>
	<p><b>【連携型】</b>      花セラピースマイルプロジェクト in 茨木～お花で茨木を笑顔に～      花セラピースマイルプロジェクト</p> <p><b>【関連課 意見】</b></p>
山本委員長	<p><b>【質疑応答】</b>      ・事業計画書では、向陽台高等学校にて、9回135名（1開催につき15名）に花セラピー講座を開催予定とあるが、対象者は向陽台高等学校の生徒のみか。      ⇒教育センター「ふれあい」と連携するため、そこで周知し、興味を持たれている方も参加いただける。      ・「ふれあい」の参加者以外は、向陽台高等学校の生徒か。      ⇒はい。</p>

<p>板倉委員</p>	<p>・不登校と花セラピーの関係性や花セラピーを実施することにより、どのような効果を得ることができるか。</p> <p>⇒花セラピストの中にも不登校の児童がいる方がいて、花セラピーにより、まず、親が心に余裕ができ、そこから子どもとのコミュニケーションが取れるようになり、学校に行けるようになったという事例を数件伺っていることから、親子のコミュニケーションに着目し、今回の事業を実施する。</p>
<p>藤原副委員長</p>	<p>・学校でやることと市の公共施設等で実施することの違いは。また、学校で実施することで得られる付加価値は。</p> <p>⇒キャリア教育として「こういう仕事があるんだ」と分かってもらうことができる。</p> <p>また、イベント等で実施すると興味がない方には見向きもされませんが、教育として実施することで、これまで興味がなかった方にも関心を持ってもらうことができる。</p> <p><b>【連携型】</b></p> <p>親子で森 Times 上音羽倶楽部</p> <p><b>【関連課 意見】</b></p>
<p>藤原副委員長</p>	<p><b>【質疑応答】</b></p> <p>・採算という点から、参加者1人当たりの費用が500円というのは、プログラムの内容を聞いていると少し安く感じる。</p> <p>⇒例えば、2人の子どもいる家族の参加で1人は興味があるが、もう1人は興味がない場合、同じ値段で参加というのは、ハードルが高い。</p> <p>現在、本事業とは別で取り組んでいることではあるが、4人家族の場合、親2人で1人分の参加料、子ども2人で1人分の参加料をもらっている。そうすることで、家族で参加しやすくする工夫をしている。</p> <p>本事業においても、別の形ではあるが参加料を抑えることで、来やすくなると思われる。</p> <p>・翌年以降も補助金を活用して実施するのか等、今後の展望を教えてください。</p> <p>⇒補助金を活用して実施するのは、場所の整備。それ以外については、参加者からの参加料(2,500円程度)で採算は取れる。</p>
<p>板倉委員</p>	<p>・スケジュールについて、9月～11月に実施を予定している山の整備、昆虫採集、木工ワークショップ(月1回程度)の現段階で決まっている人数等について教えてください。</p> <p>⇒山の整備場所も決まっていないため、月1回の実施は難しい。</p> <p>1回当たりの目安は、見学する人を含めて15家族50人程度の参加を見込んでいる。</p> <p>・8月の山の整備、広場までの道路づくりは、人件費で40人×3,000円の120,000円となっているが、ボランティアではなく、有償でということでもいいか。</p> <p>⇒そのとおり。団体に属しているメンバーの30家族程度が手伝いする、と言ってくれている。</p>
<p>河合委員</p>	<p>・予算の支出が事業をするための整備や事業で使うこと以外も含めたものもあるよう</p>

	<p>に見受けられる。そのため、事業予算とみていいのか、団体予算とみていいのかの判断が難しい。</p> <p>本日追加の資料やプレゼンを聞いていると山の整備自体もイベント化するということであることを認識できたが、当初の予算書に記載いただいている集会場の使用料についての説明が足りていないと感じたため追加で説明がほしい。</p> <p>⇒集会場は、山を整備する際の駐車場として利用するため、使用料を支払う。</p> <p><b>【連携型】</b></p> <p>健康ウォーキングで秋を楽しむ すこやかイノベーション</p> <p><b>【関連課 意見】</b></p> <p><b>【質疑応答】</b></p>
藤原副委員長	<p>・どれだけの人の参加を見込んでいるか。</p> <p>⇒団体としてマネジメントできる範囲でしか実施できない。</p> <p>そして、参加者5人に対して、1人安全サポートをつけるべきだと連携先のノルディックウォーキングの会から助言をいただいたため、第2回は30人、第3回は25人の参加人数となった。</p>
山本委員長	<p>・収支予算書の中の消耗品費でワイヤレスマイクや HDMI 等の機械類の購入費用を計上されているが、これらは連携先の団体も使うことは可能なのか。</p> <p>⇒機材については、他の団体も活用できるようにする。</p>
河合委員	<p>・事業の目的は、健康増進のためとなっていることから、健康になるための手段としてノルディックウォーキングを実施するということで、計画書を確認した限りでは認識している。そのため、来年は、健康増進のための別の事業を実施する可能性があるのか。現時点で考えていることを教えてください。</p> <p>⇒今回の申請をするにあたり、6団体が一緒に事業をしようと言ってくれた。そのため、来年以降も6団体と健康増進のためには、何をすればいいのかを話し合い計画を立てていくことを考えていることから、来年はノルディックウォーキングではない可能性もある。</p>
	<p><b>【連携型】</b></p> <p>つたえて、わたして、まざっていく～互いを知ってシールアート～ ハティムハティク</p> <p><b>【関連課 意見】</b></p> <p><b>【質疑応答】</b></p>
山本委員長	<p>・収支予算書の使用料に omocafe+C のレンタルスペース 9,000 円を計上しているが、金額が間違っていないか。</p> <p>⇒2日間で3箇所借りる予定としている。</p>

藤原副委員長	<p>・今回の提案事業は、アートワークショップで完成した作品の展示を含めたものであり、展示することにより多くの方に作品を知ってもらえるメリットがあると思うが、そのような視点が書かれていないので、補足説明をしてください。</p>
河合委員	<p>⇒コロナ禍で外出する機会が減ったことにより、一人ひとりの世界が狭くなっていることから、様々な場所へ巡回型で作品を展示し、多くの方にアートに触れていただくことで気分転換になったり、刺激を受けたりし、生活が豊かになると考えている。</p> <p>・行政や既存の取組ではなく、市民レベルでしか実現できない良い取組だと感じる。また、作品を巡回することで異なる背景を持つ方々が交流できる事業と理解している。</p> <p>現在は、大学・生活介護事業所・カフェの3箇所であるが、4箇所目や5箇所目といった次なる展開があれば聞かせてほしい。</p> <p>⇒高齢者や障害者で施設に入られている方は、多世代の方と触れ合う機会が少なく、ストレスを抱える可能性が通常の方よりも多くあると感じているため、コロナ禍でなければ、障害者施設等でもワークショップを実施したいと考えていた。</p>
山本委員長	<p>他に意見がないため、以上でプレゼンテーションを終了する。</p> <p>事務局から連絡事項はないか。</p> <p>以上で、第6回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会は閉会とする。</p>